

【都市と美術研究所】2022年6月28日（火）研究会 発表要旨

**都市を歩くこと、走ること**  
**Walking and Running in a City**

河野昌広(早稲田大学文学部助手)

KONO Masahiro

Research Associate, Faculty of Letters, Arts and Sciences, Waseda University

---

今日の都市は様々な困難を抱え、再生がすすめられている。令和3年度の「国土交通白書」の中では「コンパクトでゆとりとにぎわいのあるウォークブルな空間を形成する」という文言が見られるように、今日の都市の再生計画においては、車中心の空間から歩行者中心の空間への転換が多く行われている。2000年以降に行われてきた丸の内再開発もその一つの事例ということができる。そのような状況をふまえ、本報告ではその背景や経緯、今後の展開について考察を行う。

その際に、空間論的転回や移動論的転回といった理論的展開を概観し、移動(モビリティ)や道空間といった概念に着目した上で、「都市を歩くこと」それからその展開として「都市を走ること」について論じていく。2021年度の都市と美術研究所のまちあるきワークショップの一環で行った皇居ランニング調査の結果も参照していく。

ヤン・ゲールは建物と建物のあいだのアクティビティを活性化することによる都市の再生について論じてきたが、建物と建物のあいだとはどのような場所であるのか、そこでのアクティビティとはどのようなものであるのか、その具体的な事例として道空間、徒歩、ランニングに着目して考察を行う。